

※出席委員あて内容確認済み

第12次札幌市環境審議会 生物多様性部会 第1回会議

会 議 録

日 時：令和4年（2022年）1月20日（木）午後2時開会
場 所：札幌市役所本庁舎18階 第2常任委員会会議室

1 開会

○事務局（濱田課長）

それでは開始時間となりましたので、「第12次札幌市環境審議会生物多様性部会第一回会議」を開催いたします。私、札幌市環境共生担当課長の濱田と申します、どうぞよろしくお願いいたします。部会長が選出されるまでの間、進行役を務めさせていただきます。まず、本部会の開催にあたりまして、柴田環境管理担当部長よりご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

○事務局（柴田部長）

札幌市環境局環境管理担当部長の柴田でございます。

第12次札幌市環境審議会生物多様性部会の第1回会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日お集まりいただきました皆様には、日頃より札幌市の生物多様性行政にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

愛甲委員、西川委員、有坂委員におかれましては、環境審議会でのご検討に加えて、生物多様性部会にもご出席いただき、まことにありがとうございます。

また、有賀委員、徳田委員、山崎委員、吉田委員におかれましては、このたび「札幌市環境審議会生物多様性部会」の臨時委員就任について快くお引き受けいただき、重ねて御礼申し上げます。

札幌市では、2013年3月に、2050年を目標年次とする長期的指針である「生物多様性さっぽろビジョン」を地域戦略として策定したところですが、2020年頃を見直し年としていたこと、国際的に「愛知目標」に続く新たな目標となる「ポスト2020生物多様性枠組」や次期生物多様性国家戦略の策定を見据えて、本ビジョンの改定を行いたいと考えているところでございます。

今回の生物多様性部会では、「生物多様性さっぽろビジョン」の改定につきまして、様々な専門的なお立場から、忌憚のないご意見をいただきたく存じます。

これから長期間にわたり、皆様の貴重なお時間をいただいております。ご審議を重ねていただくこととなりますが、札幌市の生物多様性保全推進に向けたビジョン改定に向け、お力添えを賜りますよう、改めてお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（濱田課長）

続きまして、委員のみなさまの委嘱についてでございます。委嘱期間は本日2022年1月20日～2024年1月19日迄の2年となっております。本来であれば委嘱状を一人ずつお渡しすべきところですが、お手元に配布させていただいておりますので、ご了承ください。続きまして、本日は部会の最初の会議となりますので、委員のみなさまのご紹介をさせていただきたいと思っております。

3 委員及び事務局紹介

○事務局（濱田課長）

着席されている順に、私の方で紹介させていただきますので、ご起立をお願いいたします。

北海道大学大学院農学研究員准教授、愛甲委員。

○愛甲委員

愛甲です、よろしくお願いいたします。

○事務局（濱田課長）

RCE 北海道道央圏協議会事務局長、有坂委員。

○有坂委員

有坂です、よろしくお願ひいたします。

○事務局（濱田課長）

札幌市豊平川さけ科学館学芸員、有賀委員。

○有賀委員

有賀です、よろしくお願ひいたします。

○事務局（濱田課長）

北海道爬虫両棲類研究会会長、徳田委員。

○徳田委員

徳田です、よろしくお願ひいたします。

○事務局（濱田課長）

北海道立総合研究機構自然環境部長、西川委員。

○西川委員

西川です、よろしくお願ひいたします。

○事務局（濱田課長）

札幌市博物館活動センター学芸員、山崎委員。

○山崎委員

山崎です、よろしくお願ひいたします。

○事務局（濱田課長）

NPO 法人 EnVision 環境保全事務所主任研究員、吉田委員。

○吉田委員

吉田です、よろしくお願ひいたします。

○事務局（濱田課長）

みなさま、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の部会ですが、出席委員は7名となっており、総員数の7名の過半数に達しておりますので、札幌市環境審議会規則第4条第3項によりましてこの会議は成立していることをご報告いたします。

続きまして、事務局職員につきまして自己紹介させていただきます。

○事務局（柴田部長）

環境管理担当部長の柴田でございます、よろしくお願いいたします。

○事務局（濱田課長）

改めまして環境共生担当課長の濱田です、よろしくお願いいたします。

○事務局（寺島係長）

生物多様性担当係長の寺島です、よろしくお願いいたします。

○事務局（金盛係長）

環境政策課総括係長の金盛と申します、よろしくお願いいたします。

○事務局（大熊）

環境共生担当課の大熊と申します、よろしくお願いいたします。

○事務局（林）

サーベイリサーチセンターの林と申します、よろしくお願いいたします。

○事務局（橋本）

サーベイリサーチセンターの橋本と申します、よろしくお願いいたします。

4 部会長の選出

○事務局（濱田課長）

続きまして、部会長の選任です。

お配りしている資料で、札幌市環境審議会規則があります。その中で第5条第3項の規定により、部会には委員の互選により部会長を置くこととしております。生物多様性部会の部会長を推薦により選出したいと思っております。部会長につきまして、ご推薦のある方がいらっしゃいましたら、挙手の上ご発言をお願いいたします。

○事務局（濱田課長）

吉田委員、お願いいたします。

○吉田委員

愛甲先生にお願いするのが一番だと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（濱田課長）

只今、吉田委員から部会長に愛甲委員のご推薦がありましたが、みなさまよろしいでしょうか。

【異議なし】

○事務局（濱田課長）

ありがとうございます。

それでは愛甲委員に部会長をお引き受けいただきたいと思います。部会長席にお移りいただき、ご挨拶をお願いいたします。

○愛甲部会長

改めまして、選任いただきました愛甲です。よろしくお願いいたします。

結構長い作業になるかもしれませんが、できるだけ円滑に進めていけるよう頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

○事務局（濱田課長）

ありがとうございました。引き続き議事に入らせていただきたいと思います。

ここから進行は、愛甲部会長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

5 議事

○愛甲部会長

それでは、資料の説明をお願いいたします。

○事務局（濱田課長）

配布資料の確認をしていただきたいと思います。お手元に、上から順番に次第、委員名簿、座席表、審議会規則がございます。それから A3 横版のカラー刷りの資料について、右上に資料 1・2・3 と書いてありますホチキス留の資料がございます。

次に参考資料の方ですが、参考資料の 1・2・3・4 と 4 種類ございます。足りない資料は無いでしょうか。

○愛甲部会長

それでは、議事の 1 つ目、生物多様性さっぽろビジョンの進捗状況ということで、説明をお願いいたします。

○事務局（寺島係長）

それでは事務局から説明をいたします。

まず初めに A3 の資料 1 をご覧いただきたいと思います。札幌市内における生物多様性さっぽろビジョンに基づくこれまでの取組につきまして説明させていただきます。まず、普及啓発事業としまして、生物多様性フォーラム、夏の特別企画展として平成 29 年以降、毎年テーマや内容を変えて実施しているものになります。

一般の方向けの啓発イベントとして、夏の特別企画展につきましては円山動物園との共催で実施し、令和元年は会場での展示を行うなどして、3,700 名ほどの参加がございました。新型コロナウイルス感染症の発生以降はオンラインでの企画展や、オンラインワークショップを開催しております。

例えば令和 2 年度に実施した、生物多様性・脱炭素ウェビナーは、企業向けに生物多様性と気候変動の関連性について吉田委員に基調講演をしていただきまして、市内の企業 3 社から、生物多様性保全の取組を具体的に紹介していただくといった内容で行ってございます。

その下にございますのが平成 30 年度まで実施しておりました「まちなか生き物活動」という取組で、毎年様々なテーマで、市街地を中心にワークショップ、講習会、フットパスなどを実施しました。

次に右側の普及啓発ツールとありましてさっぽろ生き物ミニ図鑑、レッドリストを紹介するハンドブック、こちらは子ども向けのものになっているのですが、一般にも「さっぽろ生き物チャンネル」として植物を解説する動画を作成して YouTube で公開したりしています。

その他、札幌絵本コンテストを開催してございます。その下が、生物多様性シンボルマーク、キャッチコピー

を平成 25 年度に作成をしております。また、昨年 5 月からは、札幌市の生物多様性 PR キャラクターであります、カッコー先生の公式 Twitter の運用を開始しております。まだフォロワー数は少ないですが、定期的に様々な情報発信を行っています。

裏面の(2) 企業や施設との連携についてというところですが、平成 27 年から生物多様性さっぽろ応援宣言という制度を運用しております、企業が生物多様性への貢献のため、実施する取組を自ら宣言していただき、その企業を登録しまして、企業の PR を札幌市が行うといった制度になります。毎年少しずつではありますが、登録企業・団体の数が増えてきておりまして、12 月末現在で 120 企業 26 団体が登録しています。

その下ですが、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークというのですが、平成 25 年 10 月に立ち上げたもので、右に書いております 19 施設に登録していただいております。ここにいらっしゃる委員の方が所属している施設もございますが、連携事業として毎年事業を行っております、下にありますようなクイズラリーですとかバスツアーなどをこれまで開催しております。書いてある連携事業以外でも個別の施設に様々な事業にご協力いただいております。

次に右側(3) 調査事業について説明します。市民参加型の生き物調査であります「さっぽろ生き物さがし」というものを毎年開催しております。平成 28 年度から始めまして、最初の年はマルハナバチだけを対象とした調査を行っていましたが、それ以降はそれ以外のトンボ、バッタなどの昆虫類ですとか、両生類やキツキの仲間や草原の鳥などの鳥類、花や草の実ですとか木の実などの植物など、毎年対象種として何種類かのグループを設定して実施しております。

参加者数につきましては令和 2 年度新型コロナウイルス感染症の発生が起きてから、結構急激に増えておりまして、令和 3 年度、本年度につきましては過去最多の 432 チームから報告があり、報告データは 12,000 件弱ということになっております。

次に右下の自然環境調査ですが、生物多様性ビジョンでは 5 つのゾーンに区分しております、その 5 つのゾーンを代表する場所として、5 地点を選定しております。山地ゾーンは無意根山、山麓ゾーンは白旗山、市街地ゾーンは平岡公園、低地ゾーンとしてはトンネウス沼、それらをつなぐ生態系として豊平川の 5 か所を選定しております、令和元年度から調査を進めており、現在 3 年目となっております。令和元年度は植物、令和 2 年度はほ乳類、は虫類、両生類、鳥類、今年度は魚類、底生生物の調査を実施しております、来年度予定している昆虫の調査を実施して一通りの調査が終了し、その翌年度にはまとめの作業を実施しようかと考えております。

次のページに行って、協働型生き物調査ですが、こちらも令和元年度から開始したものになりまして、市民団体と生物調査を一緒に実施したり、市民団体の方が独自に調査した生物調査の結果を提供していただくというものになっております。

下にあります動植物データベースですが、こちらに提供いただいたデータを取り込むということにしておりまして、平成 30 年度に GIS ソフトウェアを使って市内の動植物の生息・生育状況ですとか文献情報などを管理するために作り上げたものです。

こちらに先ほど申し上げた自然環境調査や市民参加型の生き物調査の結果について併せて、取り込むようにしております。令和 3 年 11 月末現在で約 191,000 件のデータがあります。

右側、(4) 番の保全事業についてですけれども、まず平成 28 年(2016 年)に札幌市版のレッドリストを作成しております。掲載している種類としましては絶滅のおそれのある動植物 297 種となっております、分類別の選定種数につきましては資料に掲載しているとおりです。レッドリスト作成時に、札幌市内で見られる生態系を代表した環境の指標となる動植物 36 種類を札幌の指標種として選定しまして、継続的に先程申し上げたようなさっぽろ生き物さがしですとか、自然環境調査、協働型生き物調査などで生息状況の確認を行っています。確認状況につきましては 2016 年以降、36 種全て確認ができております。

裏面左側ですけれども外来種対策ですが、札幌市内で確認されている特定外来生物は植物だとオオハンゴ

ンソウ、オオキンケイギク、オオフサモとなっております、これらについては防除実施計画を定めて環境省の確認を受け、必要に応じた防除を行っております。左下にオオハンゴンソウの分布図を載せておりますがかなり広い範囲で確認されている状況です。他の特定外来種として、アライグマやアメリカミンクにつきましては、防除計画を策定して防除しております。また、ウチダザリガニは令和元年に豊平川で確認されて以降、市内3つの河川に生息しているということが今年度の調査で分かっております。分布状況は真ん中の右側の青い四角の中に書いております。アズマヒキガエルにつきましては令和元年に市内での産卵が確認されております、産卵池の特定と周辺で罟を活用した捕獲を実施しまして分布域を広げないようにさまざまな対策を行っております。徳田委員が代表をされている市民団体と協力して実施しております、これまで、南区の北ノ沢地区と清田区の有明地区で産卵が確認されています。

最後、右側に行きまして、生物多様性さっぽろビジョンの進捗状況ですが、ビジョンの進捗状況を確認して評価するために、施策の柱ごとに指標を設定しております、各指標については令和2年度までの目標値を1番右側に書いてあるのですが、数値として設定しております。例えば、表の真ん中に指標種の生息状況とあるのですが、こちらにつきましては先ほど説明いたしました通り、市内ですべての指標種が確認できていますので目標達成しましたという事で真ん中に令和2年度の方に赤字で丸を書いていると思います。

その他の項目につきましては、数年に1回実施している市民アンケートと毎年実施している企業アンケートで進捗状況を確認しております、そのうち生物多様性の理解度につきましては、指標達成度調査というもので毎年確認しております。

この中で目標値を達成できたのは一番下に書いてある項目の、事業者の原料調達時の配慮の促進という表になりまして、目標値よりちょっと上回って、52.2%という結果になってございます。また、「理解する」という指標であります「生物多様性の理解度」につきましては、生物多様性の意味を知っていると回答した割合を示しております、令和2年度ですと35.1%という結果になっております、目標値の60%にはちょっと達していないという状況になっております。

資料にはないのですが、言葉の意味だけ知っているという回答した方について確認はしているのですが、こちらはだいたい20%位を推移しております、「意味を知っている」とそれから「言葉だけ聞いたことがある」という人の割合を合算しますとだいたい60%程度で横ばいというような状況になっております。

アンケートの結果につきましては参考資料の1～3にあります直近の市民アンケート、企業アンケート、指標達成度調査の結果というものがおりますので、こちらをご参考にしていただけたらと思います。

それから、札幌市の他部局の生物多様性の保全に係る取組につきまして、もう1枚参考資料の4という横の表があるのですが、毎年札幌市の全庁照会という形で他の部局の方々が生物多様性に関する取組はどのような事をされているのかというのを確認して、まとめているものになります。具体的には河川ですとか公園などで行っている生き物観察会や普及啓発事業などが挙げられております。

説明は以上でございます。

○愛甲部会長

ありがとうございます。

只今説明していただいた資料につきまして、ご質問やご意見などいただきたいと思っております。どなたからでも結構です。

○有坂委員

生物多様性さっぽろ絵本コンテストが平成28年度で終了してしまっていますが、理由があれば教えていただけますか。応募がないなど、何らかの理由があればお伺いしたいです。

○事務局（寺島係長）

今はわかりかねますので、確認しておきます。

○有坂委員

わかりました。お子さんたちなど一般の人が関心を持ってくれそうないものだと思います。

○愛甲部会長

むしろ毎年こんなに結構な応募があるのだなと思いました。これは既に出版されているものを応募しているのですか。どういうものが応募されているのですか。

○事務局（寺島係長）

基本的には一般のものでした。

○愛甲部会長

このためだけに絵本を書くわけですか、書いたものを応募するという訳では無くて。

○有坂委員

そのようなものもありましたよね。先程も言いましたが、専門に出版されているものと小学生が作ったものと両方ありました。

○愛甲部会長

ありがとうございます。他にいかがですか。

○西川委員

ツール、ハンドブックが作られているのですが、学校教育の中で使用するなど継続的な取組はされていないのでしょうか。

○事務局（寺島係長）

これとは別に環境副教材といいまして、小学校全員に配る副読本というような位置づけのものがあります。そちらは全員に配っており、学年に応じてこんなことをしてほしいというような、特に5、6年生に配るものに関して言うと、生物多様性に関してまともに説明が書いてあるようなところがあります。1年生だと動物園に行って動物観察してみようといった内容が書いてあります。レッドリストやミニ図鑑につきましても、でき上がったときは結構たくさん印刷して各学校にお配りしましたが定期的に毎年お配りするところまではできておりません。

○西川委員

せっかく作られたものなので、改訂しながら長く使えるものにしていった方がよいのではと思いました。

○事務局（寺島係長）

そうですね。また、さっぽろ生き物ミニ図鑑につきましては、さっぽろ生き物さがしという事業の参加者全員にお配りしています。探すポイントや見分け方も書いてありますので、そういうところで活用はしております。

○西川委員

ありがとうございました。

○愛甲部会長

他にいらっしゃいますか。

○有賀委員

市民の方や小学校に依頼されて、生物多様性に関してお話しされに行ったりすることは年にどれくらいあるのですか。

○事務局（寺島係長）

今年私が1回行っているのと、コロナの影響で去年は無かったという認識をしておりますが、平均すると年に1，2回というような状況です。

○有賀委員

それは学校ですか。

○事務局（寺島係長）

私が今年行ったのは学校です。一昨年度は高齢者施設に行きました。お客様の層としてはそのようなところに行ったと記憶しています。

○有賀委員

わかりました、ありがとうございます。

○吉田委員

うちのスタッフが毎年市役所を通してヒグマ対策の講座を小学校や高校で相当数やらせてもらっているのですが、生物多様性と関連するものはあります。

○事務局（濱田課長）

生物多様性という表題での申し込みが1，2件で、ヒグマ関係は20件位あります。

○有坂委員

SDGs絡みでもしていらっしゃいますよね。環境局でSDGsのお話をされるときに生物多様性の話も一緒にされているイメージでした。

○金盛係長

そうですね。SDGsの講座自体かなりの数を年間通してやっけていまして、どこまで紹介しきれているかわからないのですが。

○愛甲部会長

他にいかがでしょう。

○西川委員

学校教育の話が出ましたが、学校教育が生物多様性を知ってもらう場としてはとても重要だと思っています。札幌市でやられている調査活動もありますが、子どもたちが授業の中で自然調査に関わるような場があればいいかなと思っています。そういうことはされてはいないのですか。

○事務局（寺島係長）

さっぽろ生き物さがしという事業に関して言いますと、学校のクラス単位や学年単位など団体という形での申し込みも何件か来ています。毎年学校の方にもチラシをお配りして参加者の募集をしています。

○西川委員

その取組で得たデータや結果がどのようにまとめられてどのように活かされているのか教えていただきたいです。

○事務局（寺島係長）

データをいただいて蓄積する、というところまではいつているのですが、得られたものに関してどう分析してどのように活かすかというところまで、正直まだ至っていない状況にあります。逆に言うと、こういうデータがあるとこんな活用の仕方があるとかこういう風に活かせるのではないかとということも今後考える必要があるのではないかと思います。

あと、希少種や絶滅危惧種の情報や、外来種の分布状況について把握することができる一つの情報源になっているのではないかと感じています。

○愛甲部会長

今の流れで質問です。令和元年度から2年度、3年度で報告チーム数が急に増えています。これは何か理由があるのですか。

○事務局（寺島係長）

生き物さがしは、コロナ禍で他のイベントが減ったことが影響しているのではないかと思います。屋外で行うものであり、家族単位程度の少人数で自分の行きたいときに、参加できますので、参加者数が急に増えたのではないかと。特に周知方法を変えたりはしておりません。

○愛甲部会長

ありがとうございました。

○有坂委員

先程の西川委員のお話の関連で、この得られた情報というのはオープンになっているものなのでしょうか。

○事務局（寺島係長）

今のところオープンにしています。さっぽろ生き物さがしの結果に関しては個別の事業の実施結果として冊子にまとめて、HPにアップロードし、誰でも見られるようにしてはいます。ただ、全部見られるようにしてしまうと弊害もあります。例えば絶滅危惧種の情報などをオープンにってしまうと、その情報をもとに

捕られたり、乱獲されたり、盗掘されたりといった問題がありますので、そういった情報は基本的には出さない方がいいのではないかと考えています。

他の情報についてもオープンにするかどうかは慎重に考えなくてはいけないことだと思いますし、何のために出すのかという事に関してもしっかり考えるべきだと思っております。

○山崎委員

GISなどにデータを落とし込んで蓄積されていて、うちの博物館活動センターも一緒にやらせていただいているセミ調査もあるのですが、このデータベースの中には札幌市などで行っている環境影響評価の情報も蓄積されているのでしょうか。今の有坂さんの事も関連するのですが、個々に環境局でデータベースを作っているという事があまり知られておらず、専門家も知らない方が多いのではないかと考えています。専門家にはそういうレアな種類の情報などを提供した方がいい場合があると思うので、ここにこういうデータベースがあるという事をもう少し専門家向けにも周知した方がいいのではないかと考えています。

○事務局（寺島係長）

全部ではないかもしれませんが、環境影響評価の情報もある程度入っていると認識しています。活用目的がしっかりしていれば、専門家の方に提供するという事に関しては差し支えないと思いますので、どのような情報の出し方をするかという事も含めて考えていきたいと思っています。

札幌市で行った河川の調査や他の生物調査の結果については年一回、もしデータがあったら提供してくださいというお願いをして、それらのデータもいただいて入れています。

○徳田委員

データベースの情報の精度について、一般の調査会社などでは正確なデータが出ると考えています。さっぽろ生き物さがしだと市民から見た「自信あり」「自信なし」というチェックを付けるだけなので、客観的に見なくてはならないデータかと思うのですが、その辺りお考えがあれば教えていただきたいです。

○事務局（寺島係長）

何の調査で見つかったデータかというのは必ず紐づけしておまして、データの参考文献は何か分かるようになっております。そのため精度の高いデータを集めたければそういう文献の調査データを引っ張ってくる、全般的にどういうものなのかをざっくり見たいのであれば市民の調査結果を含めて見るというような形で整理することは、手間がかかるかもしれませんができるのではないかと考えております。

○吉田委員

データベースが非常に大事なのはよくわかるのですが、徳田委員がおっしゃっていた通り、全部のデータを出して最も多様度が高いところを出そうとすると調査数の一番多いところになるのが当然ですので、北大や都市公園の中になってしまうというのが今までの課題です。世界中で動物観察をするアプリがたくさんあるので、そういうものをこのビジョンの中でしっかりと整理していくことが大きな課題の一つだと思いました。できるだけデータベースに入れていくというのは賛成です。

○有坂委員

今の吉田さんに聞きたいのですが、アプリなどで同じような市民参加の調査をされていて、希少種など、これは出したらずいではないかというようなものも、そこには載っているのですか。

○吉田委員

例えば、僕が最近よく見るアプリで一番多いのは iNaturalist(アイ・ナチュラリスト)です。これでは、例えば自分で希少種と判断したらぼやけさせるといった機能があります。1 km位とか2 km位とか提示できないというものもできていますし、アプリによっては見つけたものを他の人たちがそれはそうだと、例えば僕がこれはニホントカゲだと思っただと云ったら、2人以上の人がニホントカゲと認めたらそのデータ自体が GBIF に挙がるようになっていて、博物館で使うデータベースとして認めるようになっている。多分日本の方が相変わらずガラパゴス化が起っていて、こういうのはもう潮流が変わりつつあるから、ビジョンでこういうのをやることは、いいタイミングではないかなと思います。

○徳田委員

多分昨年だったと思いますが、iNaturalist(アイ・ナチュラリスト)は札幌市でも利用していましたよね。

○事務局(寺島係長)

利用していました。

○吉田委員

参加する人は900件とか、やる人はたくさんやるのですが、そうすると難しいですよ。ビジョンのデータの話になると思うのですが、市民に参加してもらう形にすると、参加することに意義があるとなってしまう庭の木とか撮ってくる人が出てきます。そうすると何をどこまでやったらいいかわからないので難しい。でも今がそういう事を見直し、いろいろなことを検討するタイミングではないかと思います。

○愛甲部会長

データも更新や維持していくことはなかなか大変ですが、データベース自体どなたが管理しているのですか。

○事務局(寺島係長)

データの管理は私がやっております。もらったデータを取り込む作業は業者さんをお願いしています。一度に全部はできないのですが、でき上がったものから少しずつ定期的に入れるようにはしています。

○吉田委員

ビジョンを作る時に計画としての位置づけが大事ですよ。ビジョンがあって、データベースがここにあるという事を知って、たくさんのデータをきちんとデータベースに入れるようにするシステムを作ることが大事だと思います。

例えば愛甲委員が座長をしている緑の審議会でも色々なことをやっています。僕はアセスの委員もさせていただいていますが、アセスでも色んなデータが挙がってきます。この存在を今回の計画の中でしっかり示して札幌が取るデータに関してはここにに入れていく、という合意形成がこのビジョンでできるようになれば一番有用ではないかと思います。

○愛甲部会長

そうですね。

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○有賀委員

進捗管理の施策の柱「理解する」についてです。なかなか増えないというのがどうしてなのだろうというのと、ここを上げていくことが大事なのではないかと思えます。みんなが深く知り、深く関わるという事は市民全部がというのは無いとは思いますが、認知を上げる為にこういう事があるこういう事は大事だとされている、位まではみんなが知っています。やるかどうかはわかりませんがこの位なら、となっていくとすごく関心がある人だけ関わっているというところから脱していけるのではないかと思えます。

例えば学校教育などに入れてもらう、何年生になると必ずその授業をやるという風な流れがあると若い人からですが広がっていくのではと思います。今取っている10年位のデータの中ではなかなか上がらないのが課題なのではないかなと進捗を見て思いました。

○事務局（寺島係長）

参考資料1の市民アンケートの結果を見ていただきたいのですが、年代別で生物多様性の言葉の意味を知っていた人というのが出ているかと思えます。

29歳以下は結構知っている方が多いですが30歳代になると急にガクッと減るという状況です。おそらくある程度学校などで習っている世代が割と若い世代で多いのではないかと思っているのですが、それを続けていくことがすごく大事なのではないかと思っております。みなさんおっしゃるように学校教育でうまく周知・啓発していくということを継続していく働きかけですとか、実際取り入れてもらえるような試みが必要なのではないかと思っております。

○愛甲部会長

ありがとうございます。29歳以下となっておりますが、下は何歳でしょうか。認識調査ですから20歳以上でしょうか、18歳以上でしょうか。

○事務局（寺島係長）

18歳以上です。

○愛甲部会長

18歳以上ですか。逆に言うと18歳から29歳でこんなに認知度が高いのは期待が持てる数字。内訳をみるとそう思います。

○有坂委員

その次のページの、「生物多様性を知るきっかけ」を見ると学校の授業というのが若い世代に多くなるので、教育の差なのかなとは何となく思います。

○西川委員

できればこの教育の部分をもう少し上げたいところです。やはり子ども達に生物多様性の大切さを認識してもらおう事が大事です。

○愛甲部会長

これを見ていて、「きっかけ」はテレビ・ラジオが大きいのですが、テレビ・ラジオを視聴しているのは高齢者です。逆に言えば先程紹介がありましたけどSNSを活用していただきたいです。僕も知りませんでしたが、カッコー先生は是非今日からフォローさせていただきたいです。SNSを上手く使うのが特に若い世代で

す。それから先程の進捗のお話で、改訂するまではこの資料で状況確認をしていくというお話がありました
が、それについてはみなさんいかがでしょうか。

○事務局（寺島係長）

補足しますが、ビジョンの改訂作業はこれから行っていきまして、この進捗管理や目標に関しては、この
会議やその後の庁内調整の中でどういった指標で、どういう目標値にしていくかというのを新たに設定する
形になるのではないかと思います。それまでの間何の確認もしないという訳にはいかないと思いますので、
差し支えなければ当面それができ上がるまでの間はこの指標を確認していきたいと考えております。並行し
て新たな目標、指標について検討していくという事でご了承いただきたいと思ひます。

○愛甲部会長

はい、よろしいでしょうか。

【異議なし】

○愛甲部会長

はい、ありがとうございます。

では、進捗管理方法や指標を変えた方がいいかというのが次の議題になってきますが、それまでの間はこ
れを使うという事をお願いしたいと思ひます。

それでは、次の生物多様性さっぽろビジョン策定時からの状況の変化の共有についてという事で説明お願
いいたします。

○事務局（寺島係長）

はい、それでは引き続きまして資料2、A3サイズのものをご覧いただけたらと思ひます。

平成25年、2013年に生物多様性さっぽろビジョンを策定した後の世界と日本の動きを資料2の1に大ま
かに記載してあります。

後ほど説明いたしますが、令和2年9月に愛知目標についての評価というものが出ておりまして、20ある
個別目標で完全に達成できたものはないと評価されております。

全体を眺めるとSDGsや、脱炭素社会に向けた動き、ゼロカーボンといったことが国際的にも日本におい
ても動きが非常に活発化してきていると感じております。2の札幌市の生物多様性を取りまく状況にも記載
しておりますが、SDGsの考え方につきましては環境基本計画に取り入れておりまして、基本的に札幌市が行
う事業についてはSDGsの何にあたるかという事をまずあてはめ、それを含めて考えていくという事になって
おります。札幌市としても国に先駆けてゼロカーボンシティを目指すという事についても宣言して取組を進
めているところでございます。

また、先ほど説明しましたとおり、新たにアズマヒキガエルやウチダザリガニなどの外来種が見つかり、
新型コロナウイルス感染症の発生などが確認されております。

次に右側の方にこれは環境省のHPから抜粋したのですが、次の次期生物多様性国家戦略の検討が進んで
おりまして、その話をしたいと思ひます。その前提となるのが先程申し上げた、愛知目標というものです
けれども、その後継目標であります、ポスト2020生物多様性枠組というものが、5月に開催される予定となっ
ている生物多様性条約締約国会議（COP15）において決定する見込みとなっております。

その世界規模の目標などを受け、国でもそれに並行して次期生物多様性国家戦略の検討が行われておりま
して、愛甲先生もメンバーになっております中央環境審議会というところで検討が進んでおります。その次

期国家戦略研究会の報告書を踏まえ、既存の取組に加えて2030年までに取り組むべきポイントとして、生態系保全・再生の強化ですとか、幅広い社会的課題への対処に向けた自然を活用した解決策としてのネイチャーベースドソリューション（Nbs）という考え方を取り入れることなどが挙げられております。今年の10月位に次期国家戦略についても策定される予定となっております。上の図の右下辺りに、30by30、保護地域以外で生物多様性のために貢献する場所として指定する地域を環境省が認定するというような制度を検討しており、2021年6月のG7サミットで2030年までに国土30%を保全するという目標を達成しようというような検討が行われております。

資料2の右下、2010年に開催された生物多様性条約の第10回締約国会議（COP10）で愛知目標が定められてきて、それに基づいた取組がこれまでにされております。その評価に関しましては、2019年5月に地球規模影響評価報告書IPBESが、2020年9月には地球規模生物多様性概況第5版（GB05）が公表されております。

そこでの評価がどうだったかという事に関しては裏面左上の資料です。自然変化を引き起こす要因は、過去50年間に加速していき、このままでは生物多様性保全と持続可能な利用に関する国際的な目標は達成できず、目標達成に向けては横断的な「社会変革」が必要とされているという事になっています。

また、愛知目標が未達成だった理由として、各国が設定する目標やその範囲、目標のレベルが愛知目標の達成に必要な内容と必ずしも整合していなかったというような指摘がされております。

2050年ビジョンの自然との共生の達成のためには、食料生産や消費を始めとした8分野での社会変革が必要という事になっております。社会的課題解決に向けた自然を活用した解決策というのがネイチャーベースドソリューションという事でございます。

グリーンインフラやEco-DRR、30%を自然環境エリアとして保全するという30by30といった保全に関する新しい用語が今後のキーワードになるのではないかと考えております。

その右側は、先日みなさまからビジョン改訂にあたりまして、このようなものを取り入れたらどうでしょうという視点や考え方についてご意見をいただいたものに関して、表にまとめております。お忙しい中たくさんのご意見をいただきまして本当にありがとうございました。気候変動や希少種の保全について、種の保存法、30by30やOECM、教育や防災の視点、企業の役割、ESG投資、他都市との広域連携や協働、野生動物との共生、距離感や餌やり、ペット問題、生態系サービス、ワンヘルスアプローチ、エンカル消費、持続可能な食糧生産と消費など、様々な視点からご意見を頂戴しております。

事務局からの説明は以上です。

○愛甲部会長

ありがとうございます。世界的な流れととりまく情勢という事でありました。事前にいただいたご意見が2ページ目に以降にあります。せっかくなのでみなさまにこれについてコメントをいただきたい。どのような観点で書いていただいたかというのを上げていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。おひとり2、3分でできればと思います。有坂さんからお願いいたします。

○有坂委員

みなさんの意見を見ていて、言っている事が同じというものが結構多いと思っています。

私が特に自分の役割として見るべき所は、生活と生物多様性はすごく繋がっているという事をやはり意識してもらうことが大切だと思っています。そこから始まるでしょうし多くの人ができる事という意味で、食や消費・廃棄というところを書かせてもらいました。ペットなどもそういう観点で書いているのですが、自分たちの身近なところから生物多様性の破壊にも回復維持にもなるという所をどう伝えるかという事をもう少し考えたいという視点で書いたものが結構あります。

あとこのビジョンのタイトルが結構尖っているなど思っていますが、「人類存亡の危機」と書かれていて、本当にそうだとは思いつつ、たくさん問題があるというのはわかるけれども、なぜ守らなきゃいけないのか、なぜそれに意識を向けないといけないのかという所です。その義務や責任がある一方で、やはりその自然、生き物、命の素晴らしさや面白さなどポジティブな言葉が出てきてもいいのではないかというのも、これを見ていて全体的に思いました。

課題のパーツは本当に重要だと思いつつ、それに対して動くかどうかというのは好きか嫌い楽しいか面白くないかという感情の部分がすごく重要だと思っていて、生物多様性を保全するという事をポジティブに捉えてもらえるような、自分たちがやりたくてやるというような意識づけみたいなことができればというところを思って四季の魅力を挙げています。特に札幌市の魅力で市民の人たちが感じているのは、四季がはっきりしているという事、自然が身近にあるという所で札幌市がすごくいい場所だという風に思っている市民が多いというのがアンケートの結果から出ています。そういう大事な、自分たちの身近な自然というすごく美しいとか面白いと思っているというところを原動力に動くような、そういう視点をもうちょっとビジョンの中に入れたらいいのではないかという事で書きました。

○愛甲部会長

ありがとうございます。有賀さんお願いいたします。

○有賀委員

はい、私は3つの事を書かせてもらいました。寺島係長と一緒に去年調査をさせていただきまして、希少種のカワシンジュガイが、札幌市内はすごく少ないですが、たくさんある河川を見つけました。いるとは知っていたけれどもそんなにたくさんいるとは知らず、調査をしてわかったことでした。とても貴重だと思いますので保全したいし、こんなに貴重なものがあつたという事を市民にも知ってもらいたいと思いましたが、希少種のため高値で売買されている種類ですので公表しづらいでしょうか、という所で止まっております。ではそのような希少種を札幌市としてはどうやって保全していくのか、また公表はどのようにしていくのか、その辺がケースバイケースだとは思いますがどうでしょうか。外来種の問題もたくさんありましたが、希少種について貴重だから公開できないのはわかるのですが、そういうものがあるという事を市民も知らないで終わってしまうという事もあり、どのように公表しながら保全していくかという事がまず一つです。

あと先程も学校教育の話をしたんですが、仕事上学校教育と関わる人が多いので、学校教育の中に生物多様性の事を入れてもらう事で、アンケートの結果にも出ていたとおり理解も深まるかなとも思います。その時に「札幌ならでは」「札幌だったらこれ」「札幌では是非知ってほしい」というビジョンの中の何かわかりやすいものを作ったらいいのではと思いました。何年かごとに見直してもいいと思いますが、今これを是非知ってほしいという、数少ないわかりやすいものを伝えていくというのがあれば広がりやすくなるのかなと思います。

あともう一つ、川の事をやっているんで、防災や洪水対策など、災害の事に関わる事が最近多くなりました。河川も河川法が変わってからは、治水水利のほかに環境を入れなくてはいけなくなっています。環境の事を河川整備に組み込んでもらえるのは割と余裕がある時で、実際に洪水になった時や大震災の後もそうですが、グリーンインフラになることが難しくなかなか環境も配慮した整備になっていかない実態もあります。そういうのを見ているので生物多様性に関しても余裕がある時に考えましようというのではなく、常にそのことを考えることが防災にもつながるという事になるといいかなと思います。保全しなくてはいけないという意識ではなく、我々が住む中で自然と共存していくには保全していくことも必要というベースで防災的な事と一緒に考えてもらえるような中身になったらいいなと思いました。

○愛甲部会長

ありがとうございました。徳田さんお願いいたします。

○徳田委員

私は札幌の市民の方々に、野生動物に対するモラル面を上げてほしいなと思います。その切り口として種の保存法を出させてもらいましたが、今小型のサンショウウオが日本全国にいますが結構多くの種類が希少種となっていて、特にインターネットが普及するようになってからすごく取引が盛んになりました。希少種の価格が高ければ高いほど、一部の人が産卵期の時に乱獲するという生き物に対するダメージの大きい捕り方をしてしまうという事がずっと続いています。そのせいもあって種の保存法で小型のサンショウウオを守ろうという流れが出てきましたが、残念ながら北海道のエゾサンショウウオは指定されていなく、何種類かは今年から指定されますが、エゾサンショウウオの捕獲量が逆に増えるのではないかと心配される場所があります。今まではマニアの人が自分で捕まえに行って飼育するというような形でしたので、自然から捕ってもダメージが小さかったのですが、今インターネットで買うことができるようになり、捕れる人がガバッと捕って欲しい人に売る、というような状態ができてしまっています。これが絶滅に拍車をかける可能性があると思うので、野生の個体というのを安易にインターネットで買っていいのか、ということをも市民の方によくわかってもらえるような何かを盛りこんでもらえないかなと思います。

あと加えて一般的な常識の部分も少し疑問を持ってもらいたい所がありまして、例えば魚は旬が一番おいしく食べることができるという常識がありますが、大体の旬は産卵の為に脂肪を蓄積して美味しくなるというパターンが多いと思います。旬の魚をみんなが食べたらその種類が繁殖するためのダメージになるのではないかなというような根本的な所に割と誰も気づいていなかったりするので、そういう小さな疑問が市民の中から湧いてあがるような、そんなモラル意識の醸成といいますか、そういう風になってほしいなと思っている所が根底にあり、種の保存法を基底にして色々意見を書かせられました。

○愛甲部会長

ありがとうございました。西川さんお願いいたします。

○西川委員

今まで仕事柄色々な自然環境を相手にすることが多くありました。その中で昔と変わってきているなと強く感じています。地球温暖化や気候変動の影響と考えられるのですが、今まで自然はできるだけ触らないで開発から守る、というやり方で保全するというのが当たり前でしたが、放っておくと山岳地域では笹に覆われるだろうし、私が今フィールドにしている石狩浜ではススキと牧草で覆われていて海浜植物が衰退したところもあります。放っておくと多様性がどんどん失われ、植生が単調になるというのを目の当たりにして、それをなんとか防ぎたいと考えています。温暖化がその要因なので、全部元に戻すことや維持するというのは非常に難しいのですが、根本を言えば人間が温暖化を進めてきたという事もあるので、一部であっても多様な素晴らしい自然はレファレンスとして残しておく努力はするべきではないでしょうか。ただ、そのためには人が相当手を入れなければいけません、管理もこれからの自然保護や生物多様性の保護・保全には大きく関わってくるのではないかなというのが一つです。

もう一つは自然がどんどん失われていく中で、農村など人間の影響を強く受けている場所が、さまざまな動植物の生息地・生育地として機能していることに気がつき、最近は農村で生物多様性の評価の仕事もするようになっていきます。ヒグマの出没が札幌市では問題になっておりますので、人と野生動物の軋轢をどう低下させるかということも挙げさせてもらいましたが、農村環境というものをよりよい形に持っていく中で、

社会問題となっている耕作放棄地をどのように管理したら野生動物との軋轢を低下させ、同時に生物多様性も保全できるのかという取り組みが大切ではないかと考えています。

○愛甲部会長

ありがとうございます。山崎さんいかがでしょうか。

○山崎委員

私の仕事では身近な札幌の自然を介して、活動や研究調査をしております。この生物多様性ビジョンの改訂にあたり、札幌市に根差した地域性のあるビジョンになったらいいなという観点から意見を書かせていただいております。特に紙面の限られる中で文章も限られてくると思うのですが、結果だけでなくなぜそうなっているのかをもう少し丁寧に説明している方が市民には納得していただけるのではないかと思います。だいたひ保全の考え方やSDGsを色々な場所で目にするようになり、多様性という言葉が色々な所に溢れてきていると思います。そこで生物多様性がどういうことなのかをより一層きちんと伝える必要があるという事を感じています。共生の所に「ボーダーレス化」と書かせていただきましたが、共生というと別々のものが一緒に生きていくというイメージがあると思います。逆に多様であることがゆえに境界線が重なったり曖昧になったりしていくという状況もあるのかなと思います。例えば人とヒグマやエゾシカなど具体的な例が出ましたが、それらの生活場所がボーダーレス化していく、考え方がボーダーレス化していくなど。人間の社会でも性別のボーダーレス化や多様性などが言われるようになっていきます。多様性の考え方の中にも色々な考え方があり、共生の仕方にも色々な考え方があるというのを伝えていく事が大事かなと思います。みなさん色々な課題の意識をお持ちというのが38個の意見を見てもわかりますが、これを一度に解決する方法はやはり札幌市に自然史系の博物館を作る事ではないかと。我々20年間博物館活動センターとして活動しており、このビジョンに関係する内容も色々やって来ているので、私たちのノウハウもお役に立てていただけるのではないかと思います。

○愛甲部会長

ありがとうございます、吉田さんお願いいたします。

○吉田委員

最近、イベントプロデューサーのような事をして活動する中で、市民の多様性に関する意識について低いわけでは決してないとは思いますが、伝え方に難しさがある事をすごく感じ、このビジョンはすごく難しいと思います。これを読んで「はい、理解してね」というのは難しいので、どのようにして伝えるかという事が一番大事だと思います。市役所や動物園、水族館など色々な所で色々な仕事をしてきました。来る人達は目が輝いていますが、どんどん決まった人だけになっていって、動物園でイベントをしていたら毎年来る人もいます。そんな人がたくさん出て来て、やはり特化してしまうのはよくないと思うので、どのように広げるかというのが一番課題かと思っています。

私の専門的な事からいうと一番やらなければいけない事は、ゾーニングが大きいと思います。ゾーニングの中でみなさんがおっしゃっていたように、ボーダーレス化になると熊と鹿の問題は必ず巨大化してきます。我々、札幌市から業務を受けておまして、毎朝電話が鳴ると本当にドキッとする日々が続いています。朝6時に呼ばれて濱田課長と向かうと、熊ではなく犬だったなど、そのような事は頻繁にあります。みなさんの意識が高まってきている証拠ではあるので、いいタイミングだと思います。見せ方を大事にしたいという事と、ゾーニングの中で30by30のOECMはすごく札幌に向いていると思います。目的数値を出しやすいのでこれをゾーニングの中にどう入れ込むかが課題かなと考えました。

レッドリストに関してはリストではダメなのです。リストは種だけで、アクションの事がレッドデータブックなのでレッドデータブックにならないといけません。全部やるのは無理なのでカワシンジュガイとかエゾサンショウウオのようなある種のターゲットに関してはブック化することが大事だと思います。アクションプランを書くという事です。それが絶滅危惧種の保全にもなるという事と、一番気にしているのは来年度位からアカミミガメとアメリカザリガニが特定外来生物に入るのでそうなったときどうするか、そういうことが頻繁に起こってくるので時代の変化とともに、それに対して対応できるような指針と考えを持つという事、既に二種などに対してアクションを取っていかねばならないという事があります。

最後にこのビジョンは札幌市としては非常に重要だと思いますが、札幌市は政令指定都市で石狩低地の中心都市であり、周辺自治体との連携がすごく大事だと思います。周辺自治体からも相談があるのでリードをして一緒に情報共有をするという事も非常に大事な事だと思いました。

○愛甲部会長

ありがとうございました。私の方からも少し。みなさんがおっしゃった事とかなり重なる部分があります。SDGs や 30by30 や、気候変動です。気候変動の所で少し気になっているのは、国家戦略の検討の中でも議論になっておりますが、再生可能エネルギーを増やさなければいけないという方向性がある中でジレンマが発生する可能性があります。そのトレードオフというのが非常に大きな問題になりつつあるというのが一つあります。札幌でも十分起こりうる話だと思っています。

それから他都市との連携などです。生物多様性地域戦略の策定がなかなか進まず、確定している自治体がとても少ない中で札幌周辺ではおそらく札幌市だけしか作っていないという状況です。北海道にきちんとリーダーシップを取っていただきたいという一方で、札幌市として山や川などは繋がっておりますので、そこに対してどういうメッセージを発するかという事も必要だろうというのは私もまったく同じ意見です。

その中で特に7の所に書いてありますが企業側の努力について、進捗の説明では結構企業が努力をされているという評価で、事業者の原材料調達時の配慮の促進は目標がクリアできているという非常によい評価を得られています。その一方でその国家戦略の中でも今回かなり力を入れている ESG 投資や自然関連の財務開示などがこれから企業に求められる中で、OECD も含めてどのようにビジネス側から生物多様性にコミットしていくのでしょうか。下手をすると国際的に生物多様性にコミットできない企業は投資の対象から落ちていく流れも起きつつあるというのもこのビジョン中で示していかなければいけないと感じております。

あまり興味を持ってもらえないかもしれませんが、全国的な活動をしている企業は既に気づいていらっしゃると思います。札幌の企業はそこまで考えていらっしゃる所もあるかもしれません。そこは非常に大事で出さなければいけないと感じておりました。

大体みなさんのご意見をいただきましたが質問などありませんか。ご自由にやり取りしていただきたいと思います。私は有坂さんが言っていたタイトルの話、面白いなと思います。

実は私はまだ、解りやすいほうだと思っています。他の地域のものでか、国家戦略もそうですが「国家戦略」と書いてあります。でも札幌市は「生物多様性さっぽろビジョン」と書いてあり比較的メッセージとしては解りやすいです。厚さもそうですが、比較的やわらかく読んでもらいやすい作りになっていると思います。これでしたら手に取る気にもなりますが、国家戦略の様にこんなに厚さがあるようなもの、あれを誰が読むのかという様な異常な厚さがありますので、実はそこを解りやすく使いやすくするという所も今回のポイントだと思っています。より身近なところから興味を持ってもらうという所があると思います。そして前向きなメッセージを出した方がいいという事ですよね。

○有坂委員

そうですね、危機感があまり無いなというのはすごく感じます。だからこそこういう危機感を煽ると言っ

ていいのかわかりませんが、危機的だというメッセージを発するのは大事だと思います。ただ、危機感ばかりを出すと少しネガティブに捉えてしまい、責任を押し付けられているような気がします。やはり人は好きだから動くのではないかと思います。責任感というよりは好きなもののために動くと思いますのでこれも大事だと思います。札幌市民がどうして札幌が好きかという、アンケートの上位は自然環境と書いてある訳です。それこそが札幌市らしいという言葉がみなさんから出ていますが、札幌市らしい市民らしい感覚がそこではないかと思います。そこをもう少し出せないかと思います。好きなものを守りたいよねという感じのニュアンスが出せるといいなと思います。それが多分市民の感覚だと思うのです。実感として自然が身近だと感じているとは思いますが、たくさん捕ってしまうとか、その付き合い方などが少しわかっていないという感じがします。

先程徳田さんが言ったような事など、一部の人だと思うのですがやってしまうような事です。基本的に市民には札幌には自然がたくさんあって好きというその感覚を少し大事にできるような伝え方ができるといいなと思っています。どうでしょうか。

○愛甲部会長

大事な観点だと思います。その一方で吉田さんが冒頭おっしゃったような、知っている人しか集まらないという所ですが、なかなか認知度が上がらないというのはそこにも原因があるかもしれないと思います。これが80%、90%生物多様性が認知されればいいのかというところという問題ではないとは思いますが、さすがに30%台だと少し寂しいなという気はする一方で、興味がない人にどのようにして伝えるかが非常に難しいところです。有賀さんや山崎さんは普段色々やられることがあると思うのですが、その点について何かないでしょうか。

○有賀委員

先程おっしゃられたように、本当に好きや楽しいというのが子どもだと特に見ていてわかりやすいので、生物多様性という話ではなく生き物の話であるとか、この生き物が好きであるとか面白いとか楽しいと伝わると、そこから好きな生き物が危機にあるとか見られなくなってしまうかもしれないと言った時に、それがどうしてなのかとか掘り下げた時にそれが生物多様性と繋がっているといいのかなと思います。最初からこのタイトルやビジョンをそのまま説明するより、それこそ好きな札幌の自然って何だろうという所から、例えば鳥が好きでどうあると札幌が豊かな自然なのかという事につながっていくと思います。今持っている課題も、そういう課題があるということに気がついてくれる人がもう少し増えるのかなとも思います。小さい子ども達も生き物好きな子は多いので、その子達に好きだとかかわいいという事の他に、そこに何が起きているのかという事がもう少しプラスアルファで伝わるとよいのではないのでしょうか。

一緒に来ている親御さんたちは、興味があつたり無かつたりしますが子どもが楽しんでいるのを見るのが基本的にみなさん好きなので、親御さんたちにも子どもに説明しているところから伝わっていくかなと思います。

○山崎委員

小さな展示室がありますが、基本的に自然が好きの方がいらっしゃるので、いわゆる無関心層の方が直接うちに来る事はあまりありません。逆に活動センターから出て出前の展示などをすると色々な方がいらっしゃいます。化石メインの展示イベントをショッピングモールで行いましたが、化石の研究はこうやるというスライドショーを流したりすると、大昔の生き物の生活について知ることができて、昔はこうでしたが今はみんなが見ているような自然があり、それはどうしてだろうという事に思いを馳せるようになります。私たちの活動は自然史なので、何万年何億年の単位で自然は変わってきていますという話ができます。札幌

は今自分が見ている自然だけではなく、その後ろにこういう地形ができたのはどのような自然の歴史であったのだろうか、定山溪はどうして温泉がたくさんあるのだろうかと言って、昔火山があったからですよと言うと大人も子どもも納得したり興味を持ってくれたりしますので、有坂さんが言われたように身近なトピックから生物多様性というものを語ることができます。今のビジョンの中でいうとカッコー先生が説明してくれているコラム的な所があり、そこをもう少しみ砕いた形に工夫して使えるようにしてはどうかと思います。先程、札幌らしいビジョンにと言いましたが、その中でもやはり世界ともつながっているよという事がわかる部分も必要かなと思っています。少し特殊な例ですが先日軽石をもらいました。沖縄に漂着した海底火山の噴火で出た軽石です。何の変哲もない自然現象の軽石ですが、軽石問題と言ってニュースで毎日のように流れるくらいニュースになり、一般の方にも「あの軽石」と言われるようなものになりました。博物館で紹介して実物を見せると、海は世界と繋がっているという話、長い距離流れてきて色んなものが流れ着いているという話や、海に札幌の川から流れ出たものもきっと流れ着くだろうというような話ができます。メディアで取り上げられているようなことに SNS や YouTube などどこからでもアプローチできるということも感じています。やはりまずはみんなが知っていることが知りたいと思うものです。博物館に来たらどうして恐竜ありますかと言うのかというみんなが恐竜を知っているからであって、まず生物多様性についてみんなが知っているような事・物事をコラム的な事で書いて説明するといいいのかなと、具体例が思い浮かびませんがそう思いました。

○愛甲部会長

ありがとうございました。事後の流れについて入っているような感じで進んでおりますので一旦次の資料を見ていただいた上でまた続けたいと思います。

次は、新たな課題です。これについて資料3で修正した方がいいですとかご意見いただいておりますのでポイントについて説明していただきたいと思います。お願いいたします。

○事務局（寺島係長）

では説明させていただきます。資料3です。1番最初にこれまで生物多様性ビジョンの取組に関して個別検討課題として挙げているものを5点挙げています。上から順番に(1) 保全事業を推進する事業(2) 外来生物対策の体制強化(3) 野生動物と人との軋轢対策、普及啓発の実施(4) 普及啓発事業(5) 国家戦略との整合性の調整としております。特に国家戦略との整合性については、本市のビジョンの改定作業は国家戦略の状況を横目で確認しながら進めますが、国家戦略が完成した段階で、最終的な確認を行う作業が必要となりますので、こちらは次年度となります。それ以外の(1)から(4)については2回目、3回目の部会で個別具体的に意見交換を行いたいと考えております。

2番目は現行ビジョン運用上、ここは修正したいと考える点を3点あげております。

- (1) 生物多様性保全の状況を示す指標が指標種の生息状況のみであり、生物多様性の保全に直接関わるような指標が設定されていない。
- (2) 指標を達成するために具体的に事業を計画的に遂行するためのスケジュールがない。
- (3) 4つの施策の柱が定められており、具体的な事業が羅列されているが、各事業の優先度が明確になっていない。

これらの課題については、改定により是正していきたいと考えております。

3番目は盛り込みたい内容という事で記載しています。

- (1) 生物多様性保全に直接寄与する指標設定、指標の目標達成のために必要な事業を盛り込み、進捗状況を把握しながら進める。
- (2) 指標を示す場合に、短期的に2030年を目標とした進捗管理のための数値と長期的に2050年までに

目標とした数値を設定したい。

(3) 具体的な事業については優先度を設定する。例えば、直接生物多様性保全に寄与する事業や、将来の担い手確保のための教育、普及啓発事業の優先度を高く設定する等。

(4) こちらは具体的にできるかどうか難しいかもしれませんが、環境アセスメントの対象外となる開発事業などについて、他部局や関係機関と連携して配慮を促せる連携体制の構築ができないか検討できたらと考えております。

また、現行のビジョンに関しまして、事前に委員のみなさまから、追加修正等のご意見を多数いただきました。ありがとうございました。簡単に一通り説明いたします。

No. 1 では全体を通しては特に不要と思われる点はないというご意見をいただいております。

第1章では、No. 2と3では、P2の生物多様性の喪失について、図を含めて補足説明が必要ではないか。

第2章では、No. 4、5ではP10のビジョンの位置づけについては国家戦略や道の計画との位置づけ、関係性、市の計画との関連を詳細に記載してはどうか。

No. 6ではP16のゾーン設定について、都市と郊外の区分する、緑保全創出地域との連動を考えてはどうか。

第3章では、

No. 7、P22土地利用の変化については「荒地」ではなく「石狩湿地」としてはどうか。

No. 8、P30根拠とした文献や資料について引用文献に明示してはどうか。

No. 9、10、P31具体的な種名は札幌市版レッドリスト、種の保存法の指定種から選ぶなど札幌地域として適切な例を記載してはどうか。

P32 No. 11 豊平川のサケの保全の具体策について盛り込みたい。

P34 No. 12 森林伐採や土地改変の影響や生物攪乱について言及してはどうか。

No. 13はP31とP41について、遺伝子組換え作物、ゲノム編集食品に関する解説や対策を示す必要がある。

P41 No. 14 野生動物との接し方について、餌付けや飼育、感染症、教育の観点の記載が必要、放流事業については魚類学会のガイドラインに基づいた管理を目指すこと、昆虫や両生類などにも配慮が必要とのご指摘がありました。

No. 15はP41について公園樹などへの植樹は在来種を対象としてはどうか。

No. 16もP41について、外来種などについては情報更新が必要。

No. 17はP44ヒグマ対策として実施した草刈りについて、草地を生息地とするは虫類に影響があると考えられるため、影響の評価が必要ではないか。

No. 18はP41とP44について野生動物との接し方や餌付け、ペットを最後まで飼育することについての普及啓発について。

No. 19と20はP45、P58において、動物園条例が制定されればその内容や取組をいれてはどうか。

No. 21P47市内の取組を道外などへ発信する必要がある。

No. 22 外来種対策については北海道ブルーリストに掲載されたランクに応じて対策することを明記してはどうか。

No. 23 P50 外来種について具体的な対策を示す必要がある。

第4章では、

No. 24 P54 目標について、ゾーンごとの他に主体や生態系サービスごとの望ましい姿を示すのはどうか。

No. 25 P57 4つの施策と目標との関係についてつながりがわかるようにしてはどうか。

No. 26 P59 博物館活動センターの掲載事業内容の修正。

No. 27 P59 学校教育における普及啓発において、優良図書の紹介や飼育動物の飼い方について盛り込んでどうか。

No. 28 P59 自然志向の高まりを受けて生物多様性を学ぶ機会を創出できないか。

No. 29 P59 外来種防除における譲渡を擁護する考え方についての問題提起。

No. 30 P61 協働するという内容の紹介で、環境中間支援会議北海道の取組事例を紹介してはどうか。

No. 31 P65 札幌市はフェアトレードタウンの1つであり、認証ロゴマークを取り上げてはどうか。

No. 32 P70～71 節約意識の浸透についての提言。

No. 33 P72 自然観察や体験のすばらしさ、アイヌの人々からの学びや自然を愛でる文化や習慣を紹介してはどうか。

No. 34 P73 札幌市の他部局が何を取り組むのか明確にしてはどうか。

No. 35、36 P76 進行管理については指標や目標に札幌を特徴づける生物多様性保全に何が必要か再検討、見直しが必要、アンケート調査に偏っているので施策に関連する具体的な指標を設けてはどうか。

最後資料編について、

No. 37 生態系サービスの評価に関するデータを追加してはどうか。

No. 38 地球規模生物多様性概況第5版のうち、生物多様性の損失が続いていることを表やグラフで紹介することで、世界共通の課題として捉え、札幌は世界全体の生物多様性に影響を与えていることを掲載してはどうか。

No. 39 と 40 では P30 の生物確認種数、P89 自然環境等基礎資料について、根拠とした文献等を引用文献欄に示してはどうか。

以上です。

○愛甲部会長

ありがとうございました。みなさまから多くご意見いただいております。補足のある方いらっしゃいますか。今非常に丁寧に大体網羅して説明していただいたとは思いますが、よろしいでしょうか。これだけではなく多分これからこれ以外にも議論していく中で色々修正など出てくると思います。

○吉田委員

みなさん今後議論していただいて、いいアイデアを是非いただきたいと思っています。日本には9万種の生き物がいるが、札幌は結局世界から見たら五、六千種しかいない中で多様性多様性と言い、なかなかつながらないです。それがピンと来ない理由だろうと思っています。多様性を守ると言っても、沖縄の認識と北海道の認識とは全然変わって来るだろうと思っていますし、実際に東南アジアには種の多さでは勝てない訳ですから。それで読んだ時に正直言うとどの程度変えるのかというのが見えませんでした。是非今後どの程度フォーマットを変えるのかをご意見いただければありがたいと思います。

○愛甲部会長

事務局の心づもりもあるとは思いますが。

○有坂委員

今のご意見に関連して、札幌市は消費地で都市部という面があるので札幌市内の生物多様性はもちろんありますが、やはり消費している側で、市の外の世界という話がありましたが生物多様性にかなり影響与えているということをもっと認識すべきだと思います。その辺の事を書かせてもらっていますが、そういうのがあまりこの中にはないというのが印象です。市内の話がやはりメインになっているので、市内の生物多様性だけを何とかしようと思っても、先程吉田さんおっしゃっていましたが生物多様性がいまいちイメージできないというのがありますし、できることが少ないと思います。やはり都市部は世界を考えなくては逆に

マズイというか、その辺の事を盛り込めれば良いと思っています。あとビジョンはどれなのだろうと、正直わかりませんでした。体系というのがあって理念や目標となっているのですが、ビジョンはこれですというのが無い気がしましたがどうなのでしょう。

○愛甲部会長

ビジョンはビジョンです。これ自体をビジョンと呼んでいます。

○有坂委員

生物多様性に関する札幌市のビジョンは何ですかと聞かれたときに「これです」と言えるものが無いと思います。理念の事を言っているのか、3つの事を言っているのか、どれをビジョンですと言ったらいいのだろうか、と迷ってしまいました。

○事務局（寺島係長）

色々あると思うのですが、理念的な事がやはり多いと思います。これを作ったときの札幌市の状況はこうです、だからこういう事が目標として必要です、というイメージに近いような、こういうのが理想ですというものを書いてあるのだと思います。では、そのことに近づくために具体的にどのようなことをしていいかという事に関しては少しまだ薄いなと思っておりまして、じゃあ具体的に目標があって、目標に近づくために例えば2030年までに何をしなければならないのか2050年までに何をしなければならないのかという具体的な中身を、次の改定で盛り込んでいって、札幌市の人はこちらをしたらいいというのが何となくわかるようになるようなものや、どのような事を優先してやっていかなければならないのか、取り組むのかというのがわかるようなものになっていったらよいのではないかと思います。

○西川委員

実はこれを作っていた時におりまして、今の議論を全くおっしゃる通りと思って聞いておりました。やはりその時は、市民にいかにわかってもらうかが大事で、市民がどのように思っているかをアンケートをとることによって進捗状況を評価したり、そういう目線で作られていました。具体的に何を保全するのかという事やどのようにして生物多様性が守られた札幌市街にしていくのかという目標がきちんと提示されていないという事をだいぶ議論したのですが、その時は市民レベルでどうしたらいいか、どのように考えてもらったらいのかという所に重きを置きたいという事だったので、なかなかかみ合わなかった部分がありました。

今回事務局の方からお話があり少し期待をしているのですが、その時の事情や、最初なのでという事もあったのだと思います。やはり具体的な目標がきちんとビジョンに示されないと、じゃあ一体何をしたらいいのだろうという事になってくると思います。

○有坂委員

イメージとしての解りやすさで言うと、文章があり、札幌市の現状と書いてあり、このような方法でこんなふうになっていったらいいという文章が1つあり、具体的な事は何ですというように展開していくとわかりやすいと思います。最初から「生物多様性とは」と出てきて、ビジョンがわかりづらいと感じます。ビジョンという文章やイメージがあつての説明を加えて具体的にやるべき事とやった事で構成されているとわかりやすいのではないかなと思いました。

○吉田委員

今回とても早く始めていただいていると思うのですが、実は前の前の前位の仕事で事務局として国家戦略

を作っていました。今見直したらどうしてこんなものを作ったのだろうとすごく後悔する作り方だと思います。行政としては生物多様性とは、と始めたいわけです。研究者側として働いている人の中で僕がやりながらまとめていましたら、やはり当時はこうなってしまうのですよね。国の戦略があればそれに付随しようというのが当然ながら行政の仕組みなので仕方がなかったと思うのですが、国家戦略ができるのがまだ後です。どのような動きでOECDの話が入ってくるだろうという事や、先を読んで仕掛けたらいいのではないかとというのが今年の狙いだと思います。国家戦略通りの章立てにする必要は無いのではないかとという事などが今回の狙いと認識しています。

○愛甲部会長

前回から地域戦略の作成の手引きも変わりましたし、これは作業次第で変えてもいいと思うのですが、先程の話で行くと、目標値が書いてあるのですよね54ページに。これが目標なのです。僕も少しコメントで書いたのですが、いきなりゾーンごとの望ましい姿というのを書いているのですよね。僕はここに少し違和感があり、施策の中に目標が入っているのはどういう事なのだろうと思います。第4章の推進施策の中になぜか目標が書いてあり、望ましい姿がビジョン毎に書かれていて、そうなのかと思いました。僕は作りとして、これでいいのかなと思いましたのでその辺の整理は必要かなと思います。手を付けるか付けないかという事はあると思いますが、少し事務局でも議論していただければと思います。

その他いかがでしょうか。

○徳田委員

思い付きで申し訳ないのですが、この「さっぽろビジョン」というのを題名にして、さっぽろビジョンとは何でしょうと聞かれた時に題名で示すという形にして、例えば生物多様性を守り、我々はそこから自然の享受を得るという所がありますので本当に思いつきではありますが、守ることで自然の恵みを得るというような題名にしてしまい、一般の人がそこを見ると、何を守れば自然の恵みを得られるかという興味も引けるといいますので、そういう作りをしている中で何がという所を章立てしていく、そういう作り方もいいのかなと少し思いました。

○愛甲部会長

ありがとうございました、それは非常にいいやり方です。もっとそういうものを表に出した方がいいですね。

○有賀委員

私もわかりやすいビジョンを決めるとしたらいいと思うのは、絵で見てわかるポスターなどでそこに全部は盛り込めませんが、目指すところは札幌の札幌らしい自然や街を見ながら例えば先生などが生物多様性とはこのような事を言っています、ここがこうなるからこうした方がいいなどこれを使いながら、具体的な事を1個2個説明できるような表紙にしたりポスターにするなどでもいいと思います。絵でビジョンが表現されると市民にはわかりやすくなるのではないかなと思います。

○愛甲部会長

ありがとうございました。

私、位置づけの所で書かせていただいているのですが、気になっているのが特に2ページの札幌市の各計画です。環境局でも地球温暖化を踏まえてやっていくわけですが、生物多様性の概念をもっと市民や企業に認識していただいて、IPBES(生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム)の

報告書的に言えば社会変革を起こしていかなければなりません。そういう事をしていくためには、生物多様性さっぼろビジョンがただ整合性を取るだけで、独立していいのかというのは少し気になります。もっと他の計画や他の部局でやっている事業との親和性を高めていく方向性を考えなくてははいけません。すぐには無理かもしれないですが、都心の街づくり計画などこれから札幌は新しい建物や新幹線などの開発行為が都心部では非常に多く行われていますが、大阪などでは都心部で思い切って駅の周辺に広大な緑地を民間の手によって行われそこを生物多様性の拠点にしようというような事をやったりしている事例も出てきています。ただそういうのはやはり自治体レベルではできません。民間の協力もちろん必要で、そのこと自体が生物多様性に果たす役割というのはそれほど大きくはありませんが、市民の目に触れる機会だけは圧倒的に大きく、そこで生物多様性を謳っているという事の影響力は高いです。色々とそういう所も探っていただいて他部局ともできるだけ早めに話を始めていただいて、大体素案ができてから庁内調整を始めるという話を伺いますが、できれば緑や都市計画や農政部辺りは担当者一人ずつでもいいので、来ていただいてもいいかなと思っていますのでもう少し検討していただければと思います。

他に何かみなさんからご意見ありませんか。

○吉田委員

ジレンマだらけですね。愛甲さんがおっしゃっていたように、都市部で駅前の開発があつて、アセス委員会では緑を増やした方がいいとなりますが、逆に外来種を植えるとだと困るとか、鳥ばかり増えるのではないかと僕はコメントし、ジレンマが出てきます。

その為にもみんなに知ってもらう事が必要だと思います。答えは1つでは無いけれどどうしてこういう政策をとるのかというのをビジョンで明確に示していくことが大事だと思います。順応的にしなければいけないので、そういう事を解決するのだという絵を見せることが大事かと思います。おっしゃる通りここが外れているのはまずいなという認識はありました。この計画で行くと上位計画ではなく整合性を取ることでありますので。

○愛甲部会長

全体を通して何か課題や意見があればお願いいたします。

○有賀委員

今年度あと2回予定されていると思いますが、どのように進められるのですか。

○事務局（寺島係長）

先程資料の3で課題例を挙げましたがそれを深めた意見交換をしていただきたいと考えているのと、今たくさんご意見いただいた中身を少し整理してどのような方向性で改訂を進めていくかという具体的なイメージを2回目3回目でお話させてもらい、最終的に改善の方向性というような感じで今年度分をまとめられたらと考えています。

○愛甲部会長

ありがとうございます。色々ご意見いただいたので議論に生かしていただけるように整理していただければと思います。

では、事務局より連絡事項お願いいたします。

○事務局（濱田課長）

本日は第1回の会議にお集まりいただき、貴重なご意見をみなさまどうもありがとうございました。次回の第2回は3月15日、第3回は3月18日を予定しております。後日正式にご案内しますがコロナウイルスの感染対策としてオンライン開催を考えております。

また、2月23日ビジョンに対する市民からの意見を聞くことを目的とした、ワークショップの開催を予定しております。

みなさまには引き続きご協力の方お願いいたします。事務局からは以上です。

○愛甲部会長

ワークショップについて質問があります。事前に打合わせはあるのでしょうか。

○事務局（寺島係長）

設定いたしまして後日連絡させていただきます。

○愛甲部会長

はい。では本日これで第1回生物多様性部会を閉会させていただきます、どうもみなさんありがとうございました。